



アルプス子ども会はどこでやるの？

駒ヶ根の自然と環境

かつて「住みやすさランキング」で全国第1位に輝いた駒ヶ根市は、信州南部に位置する伊那谷のほぼ中央にある、人口3万余の町です。谷と言っても、木曾山脈と赤石山脈という二つの3,000m級アルプスに挟まれながら肥沃な河岸段丘が広がっており、そうした平地は全国にここだけです。

市域の標高差が大きく内陸部にあり、気温の日較差と年較差が大きいため、特徴ある豊かな自然に恵まれていて、非常に多くの種類の動植物が生息しています。市内で全国トンボサミットが開かれたり隣村にはハチ博物館があったりするもの、「生物多様県・長野」である証でしょう。

全国と比べて日照時間が長いのは、空気がきれいでも雲を生じにくいことが理由の一つとされ、特に子ども会主会場の東伊那地区は南北東の三方を山に遮られているために年間降水量が少なく、古くから太陽エネルギー研究設備が置かれているほどです。子ども会の本部事務局の海拔は600mで、関東の高尾山、中部の猿投山、関西の生駒山などの山頂とほぼ同等。そこから約900mまでの間にいくつもの施設があります(P.76)。

年間を通じて冷涼な気候で、東京の植物園で3月に咲くニリンソウはGW前後、10月に咲くツリフネソウは8月後半に開花します。それでも、真夏は30℃を超えることがあります。海から遙か遠く湿度が非常に低いために蒸し暑さは全く感じず、木陰に入るとたちまち涼しい風が汗を飛ばして、さわやかな肌を返してくれます。夜は主要宿舎の「しぶき荘」で22～27℃、明け方は18～23℃くらいですから寒いわけでもなく、実に快適な気温です。「山ろく荘」ではこれより2～3℃低くなります。なお、中央アルプスの山頂付近では10℃を下回ることもままあり、例年8月中旬まで雪渓を見ることができます。

また、活動エリアの山はなだらかなため、土砂崩れや土石流、地滑りの危険性が山間部としては非常に低い地域であることが、国土交通省のハザードマップ (<https://disaportal.gsi.go.jp/>) で示されています。

これまで会期中に数度あった台風直撃の際に、大した風が吹かなかったことも、前述の三方を守る山々のお陰であると考えられます。